

第3回 学校運営協議会

1月31日（金）に開催されました。主な内容は下記のとおりです。

I 熟議

コミュニティ・スクールとしての地域連携活動の視点として次の3つが挙げられています。

- 【視点1】連携の目的（何のためにやるか）を明確にしているか
- 【視点2】地域づくりにつながる展開となっているか
- 【視点3】幅広い住民が参画しているか

視点1の中で重要なものの一つが、「育てたい生徒像」、つまり、生徒のどのような資質・能力を育み伸ばすか、ということです。

そこで、今回の熟議では、次の点を話し合いました。

- 商業科・工業科の生徒に関して共通する「育てたい生徒像」
- 特に商業科の生徒に関する「育てたい生徒像」
- 特に工業科の生徒に関する「育てたい生徒像」

多くの意見が挙げられましたが、主なものは下記のとおりです。

商業科 工業科 共通	<ul style="list-style-type: none"> ① 時代の流れを感じて、受け入れ、臨機応変に新旧を取捨選択する。 ② 相手の心に響くことを言うとともに相手からの意見を聞き取る。 ③ 課題を発見し解決できる。 ④ 自ら考え行動できる。 ⑤ 即戦力となるという意識を持ち、知識・技術を身に着ける。 ⑥ チャレンジ先進を持つ。 ⑦ 校訓「進取 明朗 克己」の三本立てを実践する。
商業科	<ul style="list-style-type: none"> ① 人とのコミュニケーションが十分に取れる。 ② 人前で明瞭に話をするができる。 ③ 商機を見つけ出したり、新し視点を見つけたりする。 ④ 最新の情報技術を使いこなせる。 ⑤ ベンチャー・ビジネスを立ち上げる。起業家を目指す。 ⑥ 例えば、G I Aへのチャレンジなど、課題研究の一步先を目指す。
工業科	<ul style="list-style-type: none"> ① 機械の役割を理解する。最新技術を積極的に取り入れるだけでなく、特に建築では、古来の技術も身に着ける。 ② 独りよがりとなることなく、仲間と相談して、改善を試みる。 ③ 専門的な知識・技術と実践力を身に着ける。 ④ 物づくりに興味・関心を持って取り組める。 ⑤ 学んだこと活かして即戦力として企業で活躍できる準備をする。 ⑥ 資格の取得目標を立てて実行する。

今後は、「これらの資質・能力を、どのような日々の教育活動や地域学校協働活動を通じて、育み伸ばすのか」を検討することになります。



II 報告：学校運営協議会の提言に対する取り組み

1 地元企業への就職率を高めるための企業・高校連携について

- ・商業科課題研究において山岸織物や合同会社・組と連携し、館林市の伝統織物「館林紬」を知らしめ、引き継ぐ活動を行うことによって、多種多様な産業が存在することを勉強するとともに、少しでも興味関心を集め、地元企業の選択肢を増やす活動を行った。
- ・建築科で校内に設置したベンチの基礎を打ち直すため、生コンクリート工業組合と連携して、ベンチ基礎用のコンクリートブロックの製作を行った際、業界自体の知名度アップや、女性も安心して働いている状況など、もっと多くの人に知ってもらいたいと依頼があり、SNS等を利用した生コン業界のPR動画の制作を商業科で行った。
- ・継続的に行ってきた、館林市、百年小麦ブランド化委員会、館林市教育委員会と連携して、百年小麦のPRや販売活動を発展させ、日清製粉の指導のもと、新しい麺製品のアイデアの発案など勉強会を通して行った。地元企業と連携することで、地元企業の理解を深める場が多く持つことができた。
- ・今年度1年生全員にインターンシップを行った。館林商工会議所の協力を得て、本校で作成した協力企業向けのチラシを配布していただき、回答のあった地元企業へ派遣を行った。働くことの大切さを知ると同時に、地元にどのような企業があるか知ることができ、大変有意義であった。

2 入学志願者を増加させるための小学校・中学校・高校連携について

- ・商業科で調査研究を行った館林紬を装飾したマガジンラックを、建築科の課題研究で製作し、館林市立第一中学校、第二中学校へ寄贈し、本校の学習成果を知らしめる活動を行った。
- ・百年小麦の活動の中で、毎年小麦の収穫の手伝いを行っていたが、その際に生産システム科機械システムコースで、廃棄自転車を使用した脱穀機を製作し使用した。それを学校運営協議会の中で提言していただいた、館林市立第九小学校の稲刈りに参加して、小学生に使用してもらい、さらには商業科の生徒がお米の流通等を小学生にレクチャーし、本校の教育活動を小学生に知ってもらう機会をもった。「2つのしょうこう」（商業と工業の連携、小学校と高校の連携）として、メディアにも取り上げられた。さらにPRのため、小学生を対象とした、百年小麦を使用したうどん打ち教室を行い、大変盛況であった。
- ・継続して行っている向井千秋子ども記念館での、小学生を対象とした工作教室も本年度も開き、小学生にものづくりの楽しさを教えるとともに、本校で行っている学習内容を紹介した。あわせて、生徒の作品や地域と連携した取り組みの活動内容紹介パネルの展示を行い、来場する小・中学生に本校の活動を紹介した。

3 反省と考察

ほかにもいろいろな提言をいただいたが、すべての提言を実行することはできなかった。来年度以降、取り組めるものについては、確実に実行していければと思う。コミュニティースクールのモデル校となった今年度、先生方の意識も変わり、今まで任意で行われていたインターンシップも、1年生全員に行うことができ、職業観や地元企業の理解も深まったと思われる。また、県内唯一の商業、工業併設校であったが、その強みをあまり発揮できていなかったが、今年度は商業科、工業科で連携して様々な学習活動にあたることができ、今後さらに連携を深めていってより良い成果が出せるよう進められればと思う。先生方が積極的に新しいことにチャレンジする姿が見られ、地域との連携もさらに深まっていくと思う。来年度もたくさんの提言をいただき、館林商工高校の魅力をさらに発信できるようお願いいたします。

III 「カルピス」みらいのミュージアム 見学

「ポスター・ディスプレイ・説明等により学校・企業の広報・アピールの在り方を考える機会とする」という目的のもと行いました。

見学して、参考となった主なことは、下記のとおりです。

興味・関心
を高め、
維持する。

- ① 雰囲気や口調が、親しみやすさや雰囲気を醸し出している。
- ② 音量や抑揚が適切であり、聞き取りやすい話し方である。
- ③ 参加者の反応や状況を判断しながら、参加者が思考をしたり思いを巡らせたりすることができる、微妙な間の時間を設けている。
- ④ 一辺倒な説明ではなく、趣向の異なる5つのブロックから構成されており、その順番も効果的である（順番が異なれば受け止め方も変わる）。
- ⑤ ポスター・画像・映像・ディスプレイ等を用いて、複座な内容も分かりやすく説明されている。
- ⑥ 参加者に視点の移動を求めることで、脳への刺激を増やしている。